

## 会 議 録

会議名	平成 30 年度 第 1 回 丸亀市行政改革推進委員会
開催日時	平成 31 年 3 月 22 日 (金) 13:00～15:15
開催場所	丸亀市役所 本館 2 階第 3 会議室
出席者	<p><u>出席委員</u> 秋山千枝、植谷澄子、逢坂十美、玉井瑞又、早馬倫代、溝渕由美子、三野靖、奥田徹、高畑安代、眞鍋宣訓、吉川恵子、川尻敦子、小亀修、佐藤常光</p> <p><u>事務局</u> 市長公室長 山田理恵子 (市長公室秘書政策課) 課長 山地幸夫、副課長 窪田徹也、担当長 野本政宏、主査 宇野大志郎</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 丸亀市行政改革の概要について</li> <li>2. 第四次丸亀市行政改革プランの進行管理について</li> <li>3. その他</li> </ol>
傍聴者	0 名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
山地課長	<p>定刻が参りましたので、ただ今より丸亀市行政改革推進委員会を開会いたします。会長が選任されるまでの間、進行役を務めさせていただきます秘書政策課の山地と申します。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>それでは、まず、行政改革推進委員の皆様へ委嘱状を交付いたします。お名前をお呼びいたしますので、順に市長より委嘱状をお受け取りくださいますようお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">&lt;市長より各委員に委嘱状の交付&gt;</p>
山地課長	<p>それでは、ここで梶市長より、皆様にご挨拶を申し上げます。</p>
梶市長	<p>行政改革は、行政の事務執行がいかにより市民のために最も適切な方法で行われているかをチェックする重要な課題でございます。このような審議会場で、どうすれば活発な議論がなされるかというのも、ある意味行政改革の一つです。こうした会議が形骸化するようであれば、やはり市民のためになりませんので、遠慮なくご発言いただきながら、最終的には一つの方向性を見い出せるような会議を目指していただきたいと思います。</p> <p>来年度の丸亀市の当初予算は 505 億円と過去最大となっております。新庁舎の整備、丸亀城石垣の修復、美術館の大規模改修などが主な要因となっておりますが、その先には市民会館の建設なども控えており、行政需要は増えてまいります。業務の方も国等の要請や移譲が進んでいますが、財源が十分に補償されているわけではございません。一方で、市の職員を増やすというわけにもいきま</p>

	<p>せんので、現在の体制で市民の皆様に納得いただけるよう取り組む必要があります。</p> <p>無駄なことをやらずに、必要なことを必要な人数で行っていくのが業務の合理的な手法で、行政改革の本来の趣旨かと思えます。委員の皆様におかれましては、一人ひとりが市長になったつもりでご意見を賜ればありがたく存じます。</p>
山地課長	<p>市長は、公務の都合上、ここで退席させていただきます。続きまして、各委員より一言ずつ自己紹介をいただきます。</p>
	<p>&lt;各委員自己紹介&gt;</p>
山地課長	<p>次に事務局の自己紹介をさせていただきます。</p>
	<p>&lt;事務局自己紹介&gt;</p>
山地課長	<p>それでは、丸亀市行政改革推進委員会の進め方などについて、事務局より説明させていただきます。</p>
秘書政策課 宇野	<p>&lt;資料に基づき説明&gt;</p>
山地課長	<p>質問等はございますでしょうか。</p> <p>無いようですので、会長、副会長の選任に移らせていただきます。議事に入ります前に報告でございますが、現在 14 名の委員のうち 14 名のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例に基づき、会議が有効に成立していることをご報告しておきます。</p> <p>それでは、会長、副会長の選任に移らせていただきます。丸亀市附属機関設置条例第 6 条第 1 項に、「附属機関に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める」とありますが、いかがいたしましょうか。</p>
秋山委員	<p>事務局の考えはいかがでしょうか。</p>
山地課長	<p>事務局としましては、会長は三野委員、副会長は眞鍋委員にお願いできればと考えておりますが、いかがでしょうか。</p> <p>&lt;異議なし&gt;</p>
山地課長	<p>三野委員、眞鍋委員におかれましては、ご了承いただけますでしょうか。</p> <p>&lt;両委員了承&gt;</p>

山地課長	<p>それでは、三野会長、眞鍋副会長よろしくお願ひいたします。</p> <p>では、改めまして会長、副会長より一言ずつ、ご挨拶をお願ひします。</p> <p>&lt;会長、副会長挨拶&gt;</p>
山地課長	<p>ありがとうございました。それでは、丸亀市附属機関設置条例第 7 条に基づきまして、ここからは会長に議長を引き継ぎますので、よろしくお願ひします。</p>
三野会長	<p>それでは、私の方で議事を進めさせていただきます。本日の議題は、(1) 丸亀市行政改革の概要について、(2) 第四次丸亀市行政改革プランの進行管理について、(3) その他 でございます。まず、議事の 1 「丸亀市行政改革の概要について」事務局より説明をお願ひします。</p>
秘書政策課 宇野	<p>&lt;資料に基づき説明&gt;</p>
三野会長	<p>これまでの丸亀市の行政改革の経緯と、現在の第四次丸亀市行政改革プランについて総論的に説明いただきました。各論については、後の議題でいただくこととしまして、今の段階でご意見等はございますか。</p>
小亀委員	<p>公共データのオープンデータ化について、詳しく説明をお願ひします。また、利用状況はどうなっていますか。</p>
秘書政策課 宇野	<p>行政が保有する各種統計データについて、情報公開請求していただかなくても、加工できるエクセルデータ等で公開し、それを活用して行政への提案に繋げていただくことを想定した、行政外部の力を活かす取組です。</p>
窪田副課長	<p>統計データなどは行政だけで持っても活用されることはそれほどありませんので、そのデータをホームページ上で公開し、市民の方などが自由に使えるようにしています。利用状況については把握していません。</p>
三野会長	<p>例えば民間企業が事業を進めるうえで住民がどのようなニーズを持っているのかという点で活用してもいいし、大学等の研究者が行政以外の立場から財政状況を分析するようなことも考えられます。</p>
奥田委員	<p>第三次行政改革プランでは市民力や地域力の向上があげられていましたが、丸亀市の自治会の加入率は全体で 50 数パーセントと良くない状況です。第三次プランの際には、この点について議論されましたか。</p>
窪田副課長	<p>今年度より市民活動推進課に自治会加入推進員を配置し、新年度でも新たな</p>

	<p>取組を加えながら加入率の促進を図っています。第三次プランでは自治会加入について踏み込んだ内容はありませんでした。市としましては重要課題として取組を進めていこうとしています。</p>
奥田委員	<p>第二次丸亀市総合計画では、加入率 6 割という目標が掲げられています。各コミュニティも大変苦勞していますし、自治会に流れている情報が市民の約半分には行き届いていないというのが現状です。行政だけでは解決できない大きな課題で、コミュニティ連合会もプロジェクトの一つとして取り組んでいます。</p>
小亀委員	<p>自治会加入率の低下は、地域防災力の低下に直結します。高齢化も進んでおり、有事の際に実働する若い世代が不足しています。</p>
三野委員	<p>丸亀市だけでなく、特に都市部の自治体共通の課題だと思います。インターネットの活用など従来とは違ったコミュニティの作り方、あり方を考える必要もあると思います。</p>
高畑委員	<p>2014 年に実施した行政改革のアンケートは、この時限りですか。第一次から第三次にかけて量から質の行政改革へ変わってきたという説明がありましたので、市民の意識に変化があるのかどうか第三次プランが終わった段階で改めて行うべきではなかったのでしょうか。</p>
秘書政策課 宇野	<p>アンケートは計画策定の前に実施するのが通例で、2014 年のアンケートも第三次プラン策定の際に行ったものです。第四次策定の際には、これまでのアンケート結果にあまり変化が見られないので割愛したという経緯があります。</p>
三野会長	<p>第二次から第三次にかけては丸亀市政の転換期で、第三次プランは必ずしも現市長の意向が反映されたものではなかったという印象があります。第四次プランは現市長のもとで策定したものですので、今後第四次プランに限らず市政全般の満足度調査がなされるかも知れませんが、例えば子育てなど、各分野で実施している個別のアンケートも市の資料として情報収集することが可能です。</p>
小亀委員	<p>アンケートの対象、回収率はどのくらいですか。</p>
窪田副課長	<p>統計学上は 1,000 のサンプルが取れば傾向が示されるとされていますので、無作為抽出で 3,000 人に送付し、30～40%程度の回収率となっています。</p>
秋山委員	<p>第二次から第三次にかけては、こども医療費の年齢制限を上げたり、税金のコンビニ納付が導入されたりと、市民の満足度は上がっているという印象があ</p>

	<p>ります。不満が多いとアンケートも実施するべきと思いますが、そうした状況もありました。</p>
山地課長	<p>前回のアンケート結果については、改めて各委員にお送りいたします。</p>
三野会長	<p>他にないようであれば、議事の2「第四次丸亀市行政改革プランの進行管理」について事務局より説明をお願いします。</p>
秘書政策課 宇野	<p>&lt;資料に基づき説明&gt;</p>
佐藤委員	<p>組織機構最適化、適正な職員数、時間外労働の削減は関連しており、有給休暇の取得促進も含めて、一連の取組として検討が必要かと思います。</p>
山田公室長	<p>国や民間で進められている時間外労働の上限規制については、この3月議会に改正条例を上程しています。時間外労働は、組織体制や人員配置に大きく関わります。民間と同じように行政も働き方改革に取り組む必要はありますが、例えばA I 導入による業務削減なども含めて、サービスの低下も招かないように総合的に考える必要があると考えています。</p>
三野会長	<p>民間の場合は罰則適用があると思いますが、市の場合どうですか。人事院は定年延長も考えていますので、そちらの対応も必要になってきます。</p>
山田公室長	<p>今のところ罰則の適用はありません。</p>
川尻委員	<p>行政には人事異動が付き物で、異動によってそれまで蓄積された能力が活かされず、効率的でない側面や、個人によって意欲の低下などがあると思います。</p>
三野会長	<p>人材育成の観点から、業務の継続性、また、専門性をどう発揮していくかという問題ですね。</p>
山田公室長	<p>人事異動については、様々な部署で経験を積んで市政に活かすというのが基本で、例えば税務課から福祉課に異動したとしても税の知識は活かされます。ただ、異動して漫然と過ごすのではなく、常に目的を持って業務に取り組むことが重要です。他の自治体と同様に、本市でも人事評価制度を導入し、職員個人が毎年度目標を設定し、管理職とともに相談しながら業務に取り組む体制を取っています。</p>
小亀委員	<p>民間での経験をもとに申しますと、個人が立てる目標に対する達成度によって、上司の評価により賞与に反映する仕組みがありました。公務員に導入でき</p>

	<p>るかどうかわかりませんが、職員の働き方が市民生活に影響することを考えますと、そうした点も検討が必要と思います。</p>
眞鍋副会長	<p>行政も民間と同じように職員が年間の目標を立て、一定のルールに基づいて評価しているのだと思います。</p>
山田公室長	<p>民間とは違って処遇に反映はできていませんが、モチベーションにも関わりますので、今後はやっていかなければならないことだと考えています。</p>
小亀委員	<p>目標の難易度も職員によって偏るでしょうから、その点も含めて判断できるような制度にしていって欲しいと思います。</p>
山田公室長	<p>難易度とは少し異なりますが、目標の数と配分量がどの程度のものを加味したものとなっています。</p>
窪田副課長	<p>各職員が設定した目標について上司が承認するかどうかというやり取りもあります。</p>
川尻委員	<p>評価も含めてその内容は公表していますか。公表することがモチベーションにも関わると思います。</p>
三野会長	<p>個人単位では難しいでしょうが、それぞれの評価ランクにどれくらいの職員がいるか、全体的な公表は可能で、私どもの大学でも教員の評価については既に実施しています。</p>
山地課長	<p>目標管理については、評価の面以外にも、本人の目標を上司が達成できるようにフォローする仕組みの点で、人材育成の意味合いも強くございます。</p>
三野会長	<p>このテーマについては皆さんも関心が高いと思いますので、今後も議論を続けていければと思います。それでは、議事の3「その他」について、事務局より説明をお願いします。</p>
窪田副課長	<p>&lt;中期財政フレームについて、資料に基づき説明&gt;</p>
逢坂委員	<p>この中期財政フレームは昨年9月時点とのことですが、その後に生じた石垣復旧の工事費はどの項目に入ってきますか。</p>
窪田副課長	<p>臨時的経費の投資的事業にあたります。石垣復旧に対する国からの補助金は、災害指定により事業費の7割となる予定です。</p>

逢坂委員	予期せぬ自然災害なども多いですが、市としてインフラの危険箇所の把握はしていますか。
窪田副課長	第四次プランでも触れていますが、施設の長寿命化などを目的として策定した公共施設等総合管理計画のなかで、市のインフラ全体について今後必要な投資的経費の見込みを示しています。
三野会長	施設所管課の個別の長寿命化計画はこれからですよ。
山地課長	当面の予定については所管課がそれぞれ掴んでおり、今後個別の計画で示していくことになります。
窪田副課長	例えば、学校施設の長寿命化計画を現在作成中であり、その他の分野も今後進めていく予定です。
植谷委員	災害等の対応については、限られた歳入のなかでも対応していかなければなりません。
三野会長	その他、ご意見はございませんか。
玉井委員	先ほど情報発信の話がありましたが、最近リアルタイムに発信する情報に価値があると言われていきますので、行政も一般の広報と分けて考えて取り組んでみても良いと思います。
溝渕委員	丸亀城は、北側の石垣など他にも被害が広がりそうで、中期財政フレームの試算よりも経費が増えていくのではないかと懸念しています。 また、人材育成に関連しますが、図書館の資料は専門家が見ないと分からないものもたくさんあります。司書を育てるには一定の期間が必要ですので、計画的に採用していく必要性を感じます。
吉川委員	自治会の話がありましたが、私自身も親の世代から代わって自治会に関わり始めて、様々な活動の状況を知り、加入の必要性を改めて感じているところです。
三野会長	それでは、他にご意見もないようですので、本日の会議を終了します。

(会議終了)